

平成5年度市内遺跡
発掘調査報告書

1994

新潟市教育委員会

例 言

1. 本書は平成5年度に国庫補助金・県費補助金を受けて実施した「新潟市内遺跡発掘調査」の報告書である。
2. 調査は新潟市教育委員会が主体となり生涯学習課が主管した。
3. 調査で得た資料は新潟市教育委員会が一括して保管している。
4. 事前協議・現地調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関よりご指導・ご協力をいただいた。

目 次

I	新潟市域の遺跡概要	1
II	平成5年度調査概要	2
	1. 管内調査概要	2
	2. 試掘調査概要	4
	1) 六地山遺跡	4
	2) 下場遺跡	5
	3) 松山向山遺跡	5

調査体制

調査主体 新潟市教育委員会（教育長 石井 淳）

総 括 武藤紘一（生涯学習課長）

事務担当 和田明彦（生涯学習課文化財係長）

調査担当 本間桂吉（生涯学習課主事）

調 査 員 大森 豊（同）・高橋 亮（同）・渋井和子（同嘱託）・野村政美（同）

I 市域の遺跡概要

新潟市は信濃川・阿賀野川の河口部に位置している。その地形は両河川の運んできた土砂によって形成され、ある時期の海岸線を示す10数列の砂丘列と砂丘間低地からなっている。砂丘間低地には砂丘列によって流路を遮られた両河川が蛇行を繰り返した跡である自然堤防が散在するほかは潟湖などの低湿地が広がっている。また、市域は地盤沈下が著しいため、標高の低い砂丘列や砂丘裾部は自然堤防などの河川堆積物に覆われている部分が多い。

市域の遺跡は現在約100ヵ所確認・周知されており、すべて砂丘列と自然堤防上に位置している。

遺跡が立地する微高地は、近世以来市街化・集落化している部分が多いため遺跡の発見が困難で、市街化・集落化していない部分の多くは、開畑や砂丘間低地を乾田化するためなどの砂取りによって削平が進んでおり、遺跡の遺存状態は良くない。また、海岸部の砂丘列（標高10数m～50数m）では、その堆積砂の厚さから大規模な掘削時以外には遺跡を発見できず、発見時には破壊が進んでいる場合が多い（注1）。さらに、前述の地理的要因から沖積面下（注2）に埋没したままの未周知の遺跡も多くあるものと考えられる。

遺跡の年代的出現は砂丘列の形成と関連しており、内陸の大江山・亀田地区の砂丘列（新砂丘Ⅰ）では縄文時代中期以降の遺跡が、石山・濁川地区の砂丘列（新砂丘Ⅱ）では縄文時代晩期以降の遺跡が、現海岸砂丘列（新砂丘Ⅲ）では奈良時代以降の遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡は10数ヵ所あるが、いずれも石鏃を主体とする石器が少量出土しているのみで土器の出土は少ないため集落ではなく、当時の市域は狩猟の場であったと考えられる。この状態は弥生時代後期まで継続するようである。

弥生時代・古墳時代の遺跡はそれぞれ数ヵ所あり、いずれも集落と考えられるが、弥生時代後期・古墳時代前期に集落と見られるややまとまった資料がある以外は断片的である。

7世紀半ばから奈良時代にかけて、古墳時代中期から後期にかけて遺跡がほとんど認められない市域に10数ヵ所の大規模な遺跡が現れ、奈良時代からの遺跡は9世紀半ばまで継続して営まれる。

平安時代に入ると奈良時代からの大規模な遺跡は衰退し、かわって小規模な遺跡が多数現れる。

中世の遺跡は50数ヵ所と多いが、近世以降の集落と重なっている部分が多く様相は不明である。

近年を除き、農業生産性が高いとは考えられない市域に古墳時代前期と7世紀中頃から奈良時代にかけて大規模な遺跡が現れる短期間で衰退することは、これらの遺跡が市域に政策的につくられたがために、その必要性の低下とともに衰退したことを示唆している。

注1 市域化東端の奈良時代の製塩遺跡（東港太郎代遺跡：新潟市遺跡番号Na5・出山遺跡：Na12）は港湾開削時に砂丘を約10m掘り下げた段階で発見され、遺存部分が緊急発掘調査された。

注2 水田面下より埋納銭が出土する例（Na104～107）や遺跡の大部分が沖積面下に埋没していた的場遺跡（Na113：最深部は標高マイナス5m）の例などがあり、同様の理由からか市域またはその周辺に設置されたと考えられる淳足柵・沼垂城・蒲原津なども未だ所在地を確認できていない。

また、水田部や砂丘部に「○○千軒」と呼ばれる集落があったとの伝承が市内数ヵ所にある。

II 平成5年度遺跡調査概要

1. 管内調査概要

今年度は試掘調査3件、立ち会い調査12件、分布調査19件の現地調査を実施し、小丸山遺跡（昭和61年度本格調査）の整理作業を行った。また、的場遺跡（平成元・2年度本格調査）出土金属製品・木製品の保存処理を国・県補助金を受けて委託実施した。

試掘調査は、六地山遺跡・下場遺跡・松山向山遺跡の3遺跡で実施した。いずれも遺跡が立地する砂丘の削平が進行し、遺構・遺物包含層等が遺存していないことを確認したため、本格調査を実施せず、工事は着工された。2章にその概要を記す。

立ち会い調査は、下水道設置・砂利採取・工場建設・個人宅造・学校プール改修等に伴って出山・竹尾・金塚山・高山・丸山・築上山・ヤマサキ・横山・大藪・山木戸の各遺跡で実施したが、いずれでも遺物包含層・遺構等は確認されず、工事は継続された。

分布調査・踏査は、土地区画整理・圃場整備・県道拡幅・下水道設置・砂利採取等に先立って実施し、うち遺跡である可能性のある11件を試掘調査することとなった。

また、山木戸遺跡の平成3年度の本格調査範囲隣接地での宅地造成計画について協議した結果、6年度に約500㎡を本格調査することとなった。

遺跡番号 遺跡名	届出・通知等 調査原因	届出地 面積	調査区分 調査期間	調査結果・遺跡の取扱い
20 寺山	土地区画整理 (事前協議)	寺山741-1 ほか 208,000㎡	分布調査 4月23日	土師質土器の散布を確認。後日試掘調査を実施予定。
12 出山	砂利採取 (事前協議)	太郎代字出山397 ほか 11,326㎡	分布調査 5月6日	遺物採集できず。後日、立ち会い調査を実施予定。
30 竹尾	下水道布設 5.5.24 法57条の3	紫竹7丁目地先 510㎡	分布調査 5月13日	遺物採集できず。後日、立ち会い調査を実施予定。
13 丸山	個人宅造 5.6.2 法57条の2	丸山ノ内善之丞組字前郷447 352㎡	分布調査 6月4日	遺物採集できず。後日、立ち会い調査を実施予定。
55 ヤマサキ	農業倉庫建設 5.7.5 法57条の2	木山字前田741-8 2,989㎡	分布調査 7月2日	遺物採集できず。後日、立ち会い調査を実施予定。
3 六地山	河川改修 (事前協議)	曾和字沢田1262-2 ほか 500㎡	分布調査 7月15日	遺物採集できず。後日、試掘調査を実施予定。
31 古屋敷	下水道布設 5.10.12 法57条の3	松崎字西地先 664㎡	分布調査 10月14日	遺物採集できず。後日、試掘調査を実施予定。
28 城山	圃場整備 (事前協議)	蔵岡字城山209 ほか 760,000㎡	分布調査 10月20日	須恵器・土師器の散布を確認。後日、試掘調査を実施予定。
14 直り山A	圃場整備 (事前協議)	直り山字大橋場3-2 ほか 760,000㎡	分布調査 10月20日	遺物採集できず。後日、試掘調査を実施予定。
1 中山	圃場整備 (事前協議)	蔵岡字上堤127 ほか 760,000㎡	分布調査 10月20日	遺物採集できず。後日、試掘調査を実施予定。
笹山前	圃場整備 (事前協議)	蔵岡字笹山前122 ほか 760,000㎡	分布調査 10月21日	遺物の散布を確認。後日、試掘調査を実施予定。

遺跡番号 遺跡名	届出・通知等 調査原因	届出地番 面積	調査区分 調査期間	調査結果・遺跡の取扱い
神明社裏	圃場整備 (事前協議)	笹山字宮浦89 ほか 760,000㎡	分布調査 10月21日	遺物の散布を確認。後日、試掘調査を実施予定。
111 松山向山	圃場整備 (事前協議)	松山字中作355 ほか 50,000㎡	分布調査 10月20日	須恵器・土師器の散布を確認。後日、試掘調査を実施予定。
112 山木戸	下水道布設 5.11.5 法57条の3	山木戸4丁目地先 3,200㎡	分布調査 11月9日	珠洲焼の散布を確認。後日、立ち会い調査を実施予定。
86 下場	県道拡幅 5.6.15 法57条の3	中野山5丁目地先 7,200㎡	分布調査 11月12日	遺物採集できず。後日、立ち会い調査を実施予定。
85 石動	県道拡幅 (事前協議)	本所字居浦845 ほか 6,000㎡	分布調査 11月19日	遺物の散布を確認。後日、試掘調査を実施予定。
112 山木戸	宅地造成 5.11.29 法57条の2	山木戸4丁目 500㎡	分布調査 11月26日	平成3年度本格調査地隣接地。平成6年度に本格調査を予定。
31 古屋敷	市道建設 (事前協議)	松崎字西626 ほか 7,200㎡	分布調査 11月29日	遺物採集できず。後日、試掘調査を実施予定。
41 大藪	市道改修 5.12.13 法57条の3	赤塚2518-3 ほか 130㎡	分布調査 12月14日	遺物採集できず。後日、立ち会い調査を実施予定。
10 金塚山	工場建設 4.9.18 法57条の2	丸山字金塚223 1,523㎡	立ち会い調査 5月6日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
52 高山	個人宅造 5.3.1 法57条の2	高山字居掛91-4 606㎡	立ち会い調査 5月8日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
12 出山	砂利採取 (事前協議)	太郎代字出山397 ほか 11,326㎡	立ち会い調査 5月28日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
13 丸山	個人宅造 5.6.2 法57条の2	丸山内善之壺組字前郷 447 352㎡	立ち会い調査 6月7日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
25 築上山	学校プール建設 5.10.16 法57条の3	新崎字築上山5437 858㎡	立ち会い調査 6月10日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
55 ヤマサキ	農業倉庫建設 5.7.5 法57条の2	木山字前田741-8 2,989㎡	立ち会い調査 7月29日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
23 横山	砂利採取 (事前協議)	島見町字大道1282 ほか 13,861㎡	立ち会い調査 10月20日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
13 丸山	個人宅造 (事前協議)	丸山ノ内善之壺組字前郷 471 54㎡	立ち会い調査 10月29日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
30 竹尾	下水道布設 5.5.24 法57条の3	紫竹7丁目地先 510㎡	立ち会い調査 11月2日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
41 大藪	市道改修 5.12.13 法57条の3	赤塚2518-3 ほか 130㎡	立ち会い調査 1月11日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
112 山木戸	下水道布設 5.11.5 法57条の3	山木戸4丁目地先 3,200㎡	立ち会い調査 2月21日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
12 出山	(事前協議) 砂利採取	太郎代字出山397 ほか 8,502㎡	立ち会い調査 2月22日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず、工事継続。
3 六地山	河川改修 (事前協議)	曾和字沢田1262-2 ほか 280,000㎡	試掘調査 9月6～16日 10月12～14日	遺物包含層・遺構とも確認されないが、遺物出土。後日、会い調査を実施予定。
86 下場	県道拡幅 5.6.15 法57条の3	中野山5丁目地先 7,200㎡	試掘調査 1月20日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず。慎重工事。
111 松山向山	圃場整備 (事前協議)	松山字中作355 ほか 50,000㎡	試掘調査 3月9～17日	遺物・遺物包含層・遺構とも確認されず。慎重工事。

2. 試掘調査

1) 六地山遺跡 (図1・2、写真1～6)

①**遺跡の概要** 遺跡は曾和字六地812ほかの砂丘上に立地する弥生・奈良・平安時代及び中世の遺物包含地で、過去の出土・採集遺物には弥生土器・アメリカ式石鏃・環状石斧・紡錘車・土師器・須恵器・越前系陶器・珠洲系陶器などがあり、畿内第V様式に比定される北陸系土器と天王山式土器が出土する新潟県における弥生時代後期の標識遺跡とされてきた。

当地域は北方及び西方を現海岸砂丘、東方及び南方を信濃川の分流のある西川の自然堤防に囲まれた排水不良な標高1m以下の低湿地で、遺跡が立地する東西1kmほどの島状の砂丘の周囲には六字潟・早潟・乳の潟等が散在していた（現在はいずれも干拓され乾田化されている）。

遺跡が立地する砂丘は松林となっていたが、第2次世界大戦後に開畑のために伐採されたために、「風浸が著しく、急激に遺跡の荒廃が…」(中村1960)目立ってきたため、1956(昭和31)年12月には、中村孝三郎・真島衛氏らを中心とする長岡市立科学博物館が学術調査を実施し、中村氏・寺村光晴氏により調査結果が報告されている(中村1960・寺村1960)。その後も、「国道116号線の開通などに伴い、遺跡付近も建造物が構築されるなど、開発の影響が著しく、さらにいっそう荒廃、削平され…」(甘粕・小野ほか1986)てきたことから、1982年には市教育委員会の委託を受けた、新潟大学考古学研究室により遺跡の依存状況確認のための発掘調査とハンドオーガーによるボーリング調査が行われ、遺跡の削平進行と周知範囲北側の水田面に「弥生時代の遺物包含層の続きと考えられる黒褐色砂層が伸びている…」(甘粕・小野ほか1986)ことが確認された。さらに、1984(昭和59)年には遺跡周知範囲東端に建つモーターの改築に伴う試掘調査(新潟市教委1985)を、1985年(昭和60)年には、長岡市立科学博物館の調査地点と同モーターの間にある砂丘を南北に縦断する市道の拡幅工事に先立つ試掘調査を実施したが(川上1991)、いずれも明確な遺物包含層・遺構等は検出されず、遺跡の削平が、中村氏らの調査時よりさらに進んでいることが確認されている。

なお、1983・1984(昭和58・59)年に実施した分布調査により、遺跡が立地する砂丘上のほぼ全域に弥生・奈良・平安時代及び中世の遺物が散布していることが確認されたため(新潟市教委1984・新潟大学考古学研究室1985)、周知範囲が南西方向に拡大され、現在に至っている。

②**調査に至る経緯** 今回の調査原因となった旧広通江は、遺跡が立地する砂丘を東西―北東方向に約1,000mにわたって縦断する幹線排水路で、近世に本遺跡北側の六字潟や南西の早潟・乳の潟を初めとした新川以西・西川以北の低湿地の排水を目的として開削され(自然流路を排水路として整備した可能性もある)、流路変更等の改修が繰り返されてきた。1951・1952年(昭和26・27年)には、より直線的な現河道に改修されたものの、集中的な降雨に対しては現在の排水能力が不十分で、周辺の水田が度々冠水するため、同排水路の拡幅・河床掘り下げ等によって排水能力を高めることとなった。

このため、事業者である農林水産省北陸農政局西蒲原水利事務所との事前協議により、遺跡の範囲・遺存状態と事業の埋蔵文化財への影響を確認するために試掘調査を実施することとなった。

③**調査** 周知範囲の中央部北端から西端とその周辺の開発に係る部分に2m×3m大の68ヵ所の試掘坑(計約400㎡)を設定し、9月6～16日及び10月12～14日の延べ11日間にわたり、重機によって表土・盛土等を除去した後人力で試掘坑内を精査する方法で調査した。

④調査結果と遺跡の取扱い 調査範囲内には明確な遺物包含層・遺構の遺存を確認できなかった。周知範囲西端からその西側隣接地にかけての畑（40T～49T付近）は、昭和26・27年の流路改修（40T～49T付近の畑の北側を流れていた流路のその南側への改修）の際に排土を盛り上げて形成された部分と考えられる。また、現流路左岸の55T～63T付近の畑及び現流路右岸の7T以北には本来の砂丘が遺存しているが、遺物包含層・遺構等は既に削平され、遺存していなかった。砂丘基盤砂層（明褐色砂）まで掘り下げた試掘坑の多くには、その上に黒褐色砂層が堆積していることが確認された。この層は、「現在の微高地の末端から、その西に広がる水田にハンドオーガーによるボーリング調査を行ったところ、微高地上の弥生時代の遺物包含層の続きと考えられる黒褐色砂層…」（甘粕・小野ほか1986）とされた層だが、今回の調査ではこの層から遺物を検出できず、遺物包含層と確認できなかった。

なお、弥生土器（24T・27T出土）・珠洲焼（8T出土）の甕破片等（写真5・6）が二次堆積層（遺跡が立地する砂丘の北側に広がっていた六字潟を乾田化するために砂丘を一部崩した際に形成された層及び旧広通江改修の際の排出土）中に混在していることから、遺跡の範囲は概ねこの範囲であるものの、砂丘北斜面の中央部から西端にかけての部分はほぼ壊滅状態にあると考えられる。

調査結果をもとに、県教育委員会・事業者と協議した結果、遺跡の破壊が著しいため本格調査を実施しないが、遺物が二次堆積層中から出土した9Tや24T付近については、遺跡が一部遺存している可能性もあるため来年度の着工時に市教育委員会職員が立ち会い調査を実施することとなった。

2) 下場遺跡（図3、写真7～10）

①遺跡の現況と調査に至る経緯 下場遺跡は下場本町432ほかの砂丘上に立地する平安時代の遺物包含地として周知されている。発掘調査例はないが、採集遺物には土師器片がある。同一砂丘列上には、六地山・的場・石仏山・石山・猿ヶ馬場A・猿ヶ馬場B・石動・新崎・築上山の各遺跡がある。

今回の調査は、周知範囲西側に係っている県道横越・新潟線（通称赤道）の拡幅工事が計画されたため、遺跡の範囲・遺存状況と開発の遺跡への影響を確認するために実施することとなった。

②調査 1月20日の開発予定地内に設定した9ヵ所の試掘坑（1T：1m×1m大、2～9T：2m×3m大、計49㎡）を重機で掘り下げた後、人力で遺構・遺物包含層・遺物の有無を精査した。

③調査結果と遺跡の取扱い ごく限られた範囲の調査であるため開発範囲内の状況についてのみしか言えないが、遺跡の立地する砂丘列はその南裾部（9トレンチ付近）を除いて砂丘基盤層（明褐色砂層）まで削平が進んでおり、遺物包含層・遺構は確認されなかった。9トレンチ付近は削平を受けていなかったが、遺物包含層などは確認されなかった。

今回の調査結果からは遺跡本体が削平されているのか、遺跡が今回の開発範囲にまで広がっていないかの判断はできないが、いずれにしても今回の開発による埋蔵文化財への影響はないと判断されたため、県教育委員会から事業者に対して慎重に工事を実施するよう通知された。

3) 松山向山遺跡（図4、写真11～16）

①遺跡の概況と調査に至る経緯 遺跡は松山字中作394番地ほかの全長180mほどの北東－南西方向

に走る島状の砂丘（通称向山）に立地する平安時代の遺物包含地で、昭和59年度に市教育委員会が、酒井和男氏に委託した分布調査により発見・周知された（酒井1985）。同一砂丘列上の遺跡には横越村の居浦郷遺跡（平安時代）、亀田町三條岡遺跡（奈良・平安時代）・浦ノ山遺跡（平安）・塚ノ山遺跡（平安）等がある。また、今回の試掘調査に先立って実施した分布調査では、主として遺跡周知範囲西側に平安時代の須恵器・土師器の杯・甕破片等（写真15・16）が散布していることが確認されている。

遺跡の周知範囲は沖積地の中に砂丘頂部が島状に露頭している部分（畑地）で、昭和40年頃の砂取りによって削平されたが、沖積面下に埋没している砂丘裾部には遺跡が遺存している可能性があった。

今回は遺跡周知範囲全域が圃場整備計画に係って削平されることになったため、遺跡の遺存状況と範囲の確認を目的とした試掘調査を実施することとなった。

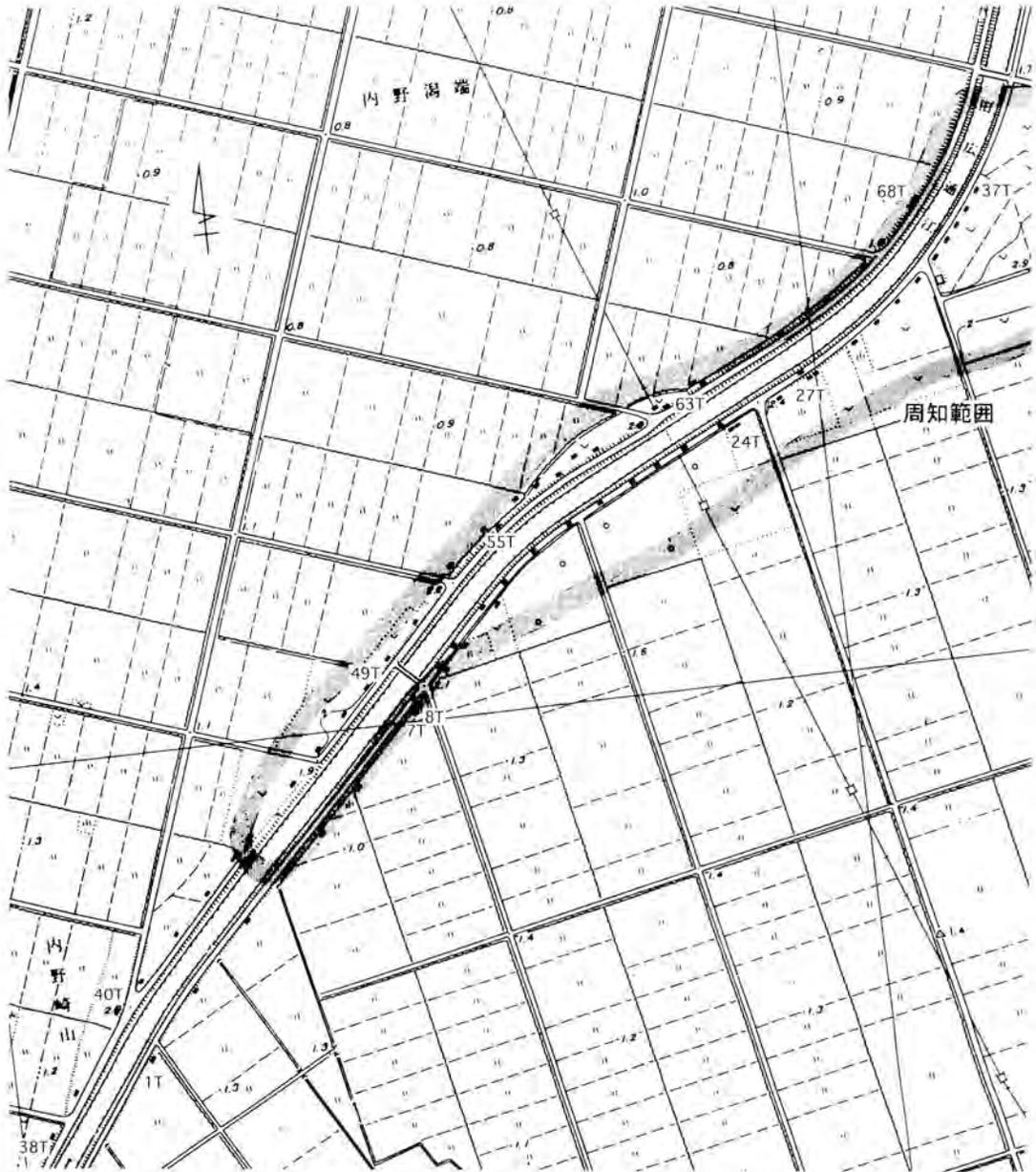
②調査 3月9日～3月17日の延べ6日間に、遺跡周知範囲を中心に開発範囲全域に設定した2m×4m大の25ヵ所の試掘坑を重機で掘り下げた後に人力で試掘坑内を精査した。なお、地盤が軟弱な沖積地部分の試掘坑の埋め戻しの際には表土下に砂を敷いて、耕作地盤の沈降防止に努めた。

③調査結果と遺跡の取扱い いずれの試掘坑からも遺物・遺物包含層・遺構は検出されず、遺跡は過去の砂取りにより埋滅していることが確認された。また、遺跡は周知範囲周辺の沖積面下にまでは広がっていないことも確認された。

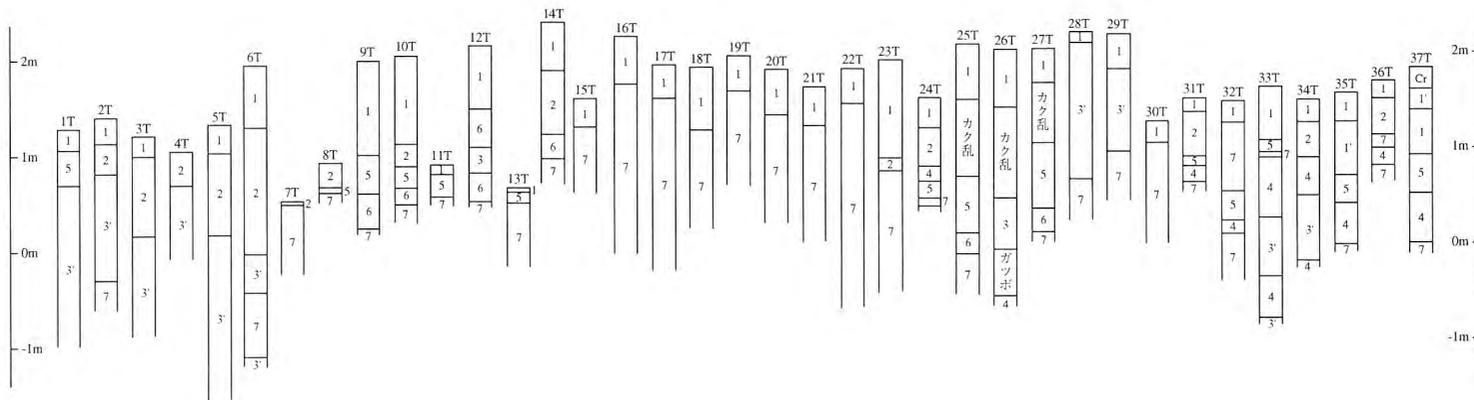
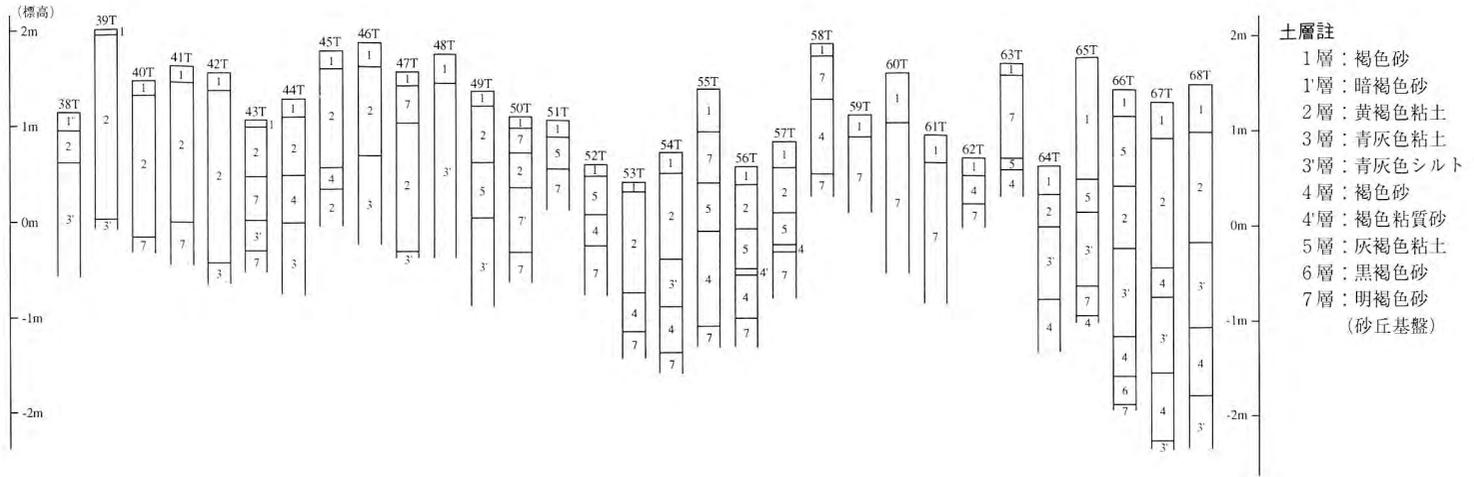
調査の結果から、県教育委員会より事業者に対して、本格調査は不要であり、慎重に工事を実施するよう通知がなされた。

引用・関係文献

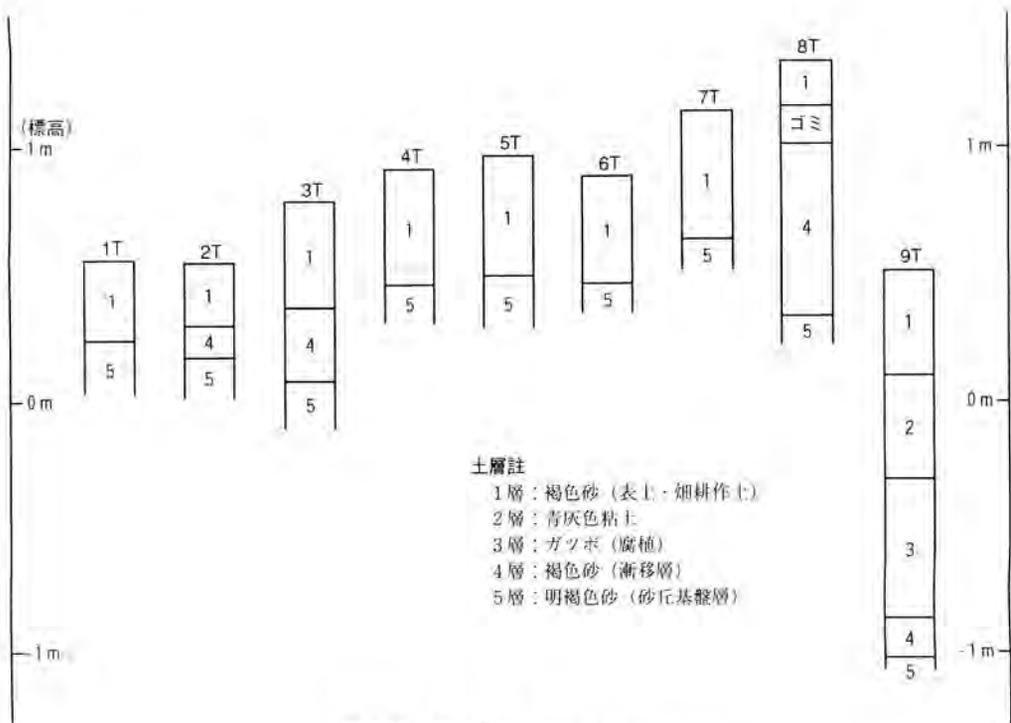
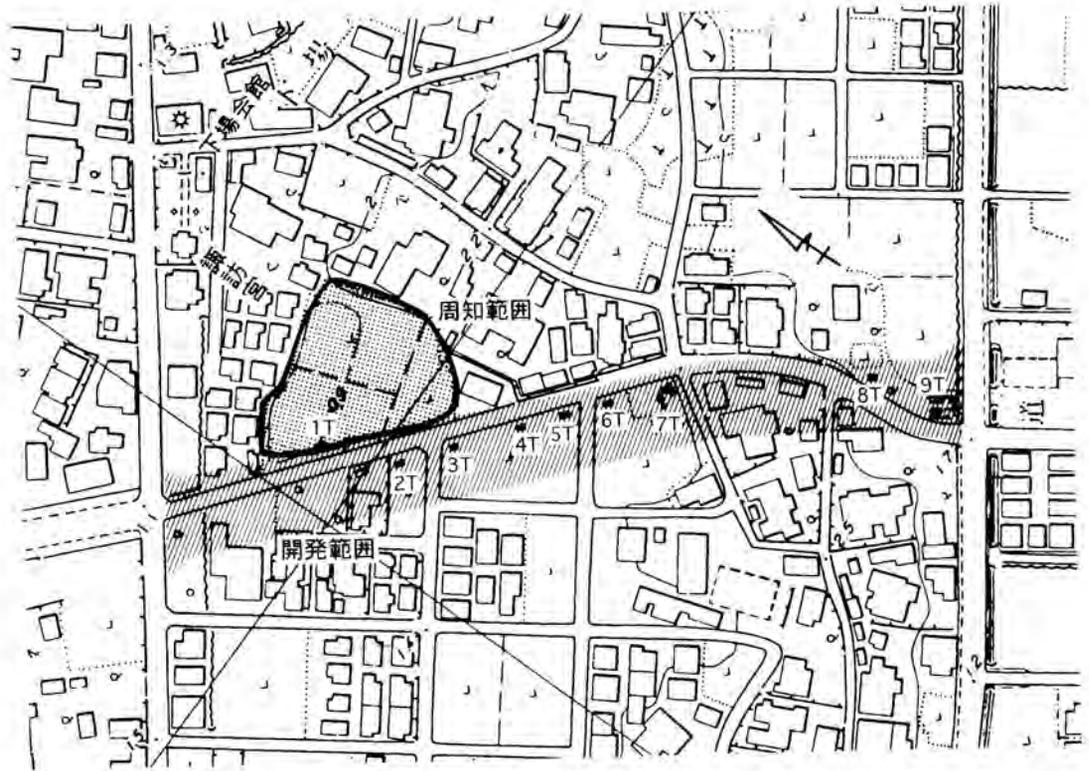
- 甘粕健・小野昭 1983「六地山遺跡発掘調査の概要」『昭和57年度新潟市文化財調査概要』新潟市教委
- 甘粕健・小野昭ほか 1986『六地山遺跡—1982年発掘調査を中心に—』新潟市教委
- 川上貞雄 1991「六地山遺跡—1985年度の調査—」『1989年度埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟市教委
- 酒井和男 1985「大江山地区の遺跡調査(2)」『昭和59年度新潟市文化財調査概要』新潟市教委
- 酒井和男 1986「大江山地区の遺跡」『新潟市合併町村の歴史』4 新潟市
- 酒井和男ほか 1987「亀田砂丘前列後列間の遺跡」『大江山地区の遺跡』新潟市教委
- 坂井秀弥 1985「越後の弥生後期についての覚書」『新潟県史研究』1 新潟県
- 寺村光晴 1960「越路六地山遺跡」『上代文化』第30輯 國学院大学考古学会
- 寺村光晴 1960「新潟県西蒲原郡六地山遺跡」『日本考古学協会年報』9 日本考古学協会
- 中村孝三郎 1960「西蒲原郡中野小屋村曾和 弥生式 六地山遺跡」『NKH』Vol. 2, No. 4
長岡市立科学博物館友の会
- 新潟市教育委員会 1985「埋蔵文化財調査」『昭和59年度新潟市文化財調査概要』
- 新潟大学考古学研究室 1985「六地山遺跡の立地する砂丘一帯の遺跡分布調査」『同上』新潟市教委



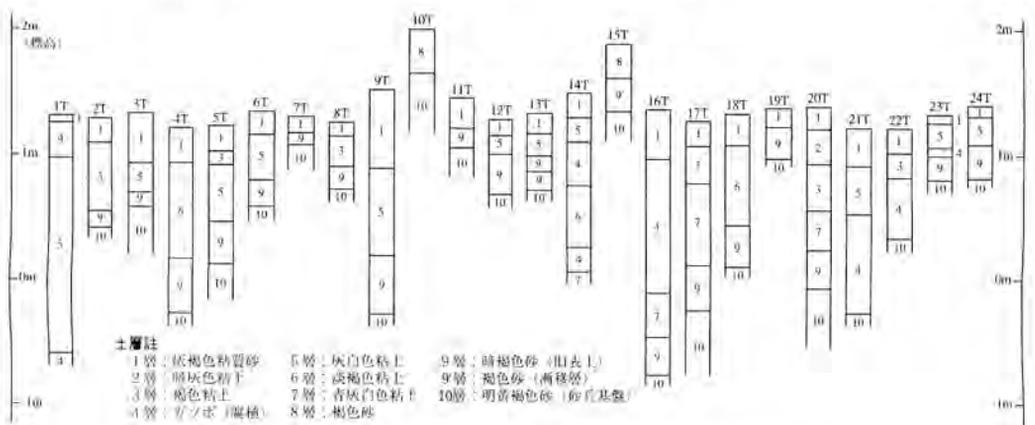
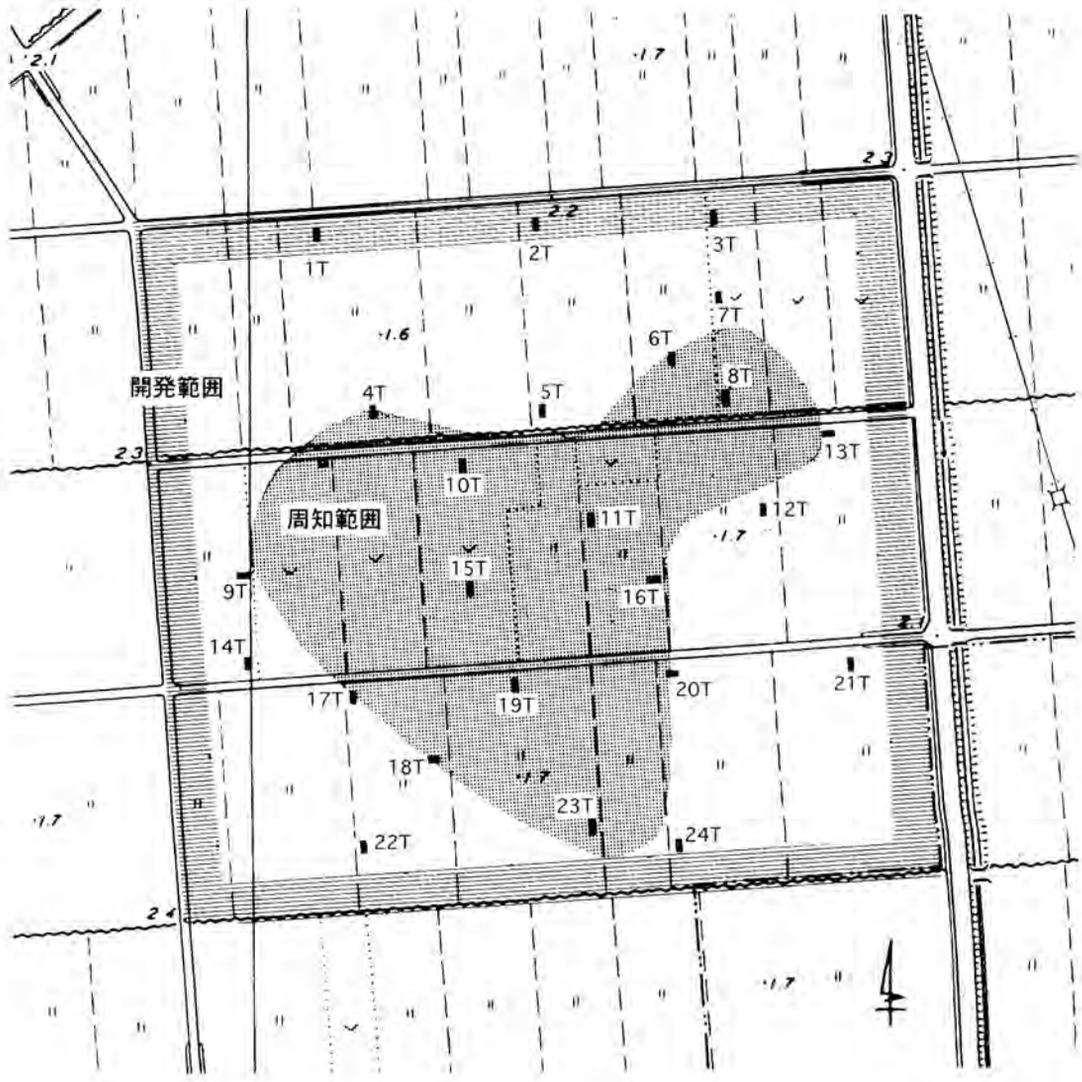
第1図 六地山遺跡 (位置図：S=1/12,000,試掘位置図：1/3,000)



第2図 六地山遺跡土層



第3図 下場遺跡（平面図：S=1/2,500）



第4図 松山向山遺跡 (平面図：S=1/2,500)



1 六地山遺跡遠景(東から)



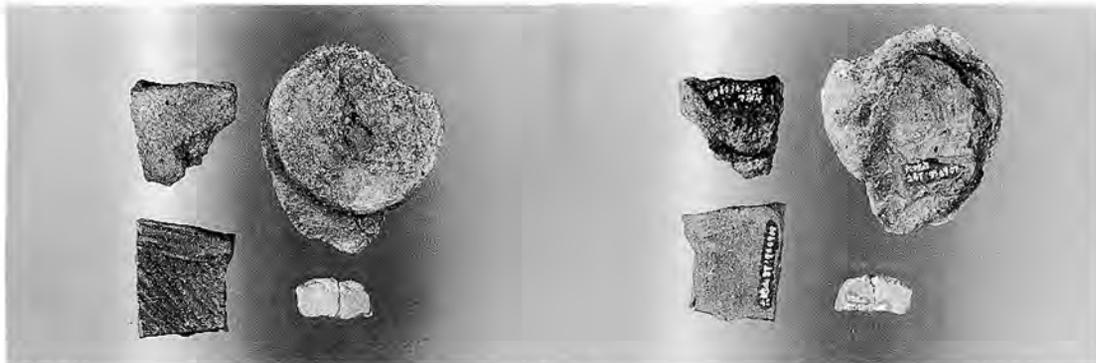
2 六地山遺跡調査風景(38 T)



3 六地山遺跡27 T 土層



4 六地山遺跡60 T 土層



5 六地山遺跡出土遺物

6 六地山遺跡出土遺物



7 下場遺跡調査風景(5 T)



8 下場遺跡調査風景(9 T)



9 下場遺跡 5 T 土層



10 下場遺跡 9 T 土層



11 松山向山遺跡遠景



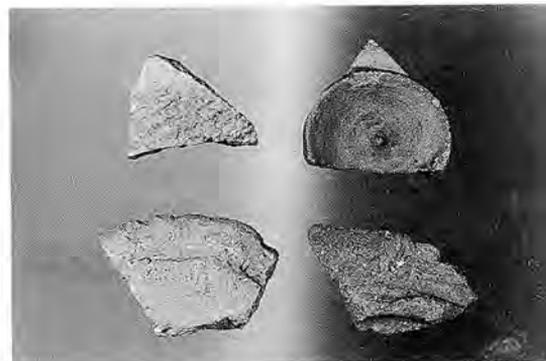
12 松山向山遺跡調査風景(15 T)



13 松山向山遺跡 5 T 土層



14 松山向山遺跡 24 T 土層



15 松山向山遺跡採集須恵器



16 松山向山遺跡採集土師器

平成5年度市内遺跡
発掘調査報告書

発行日 平成6年3月30日
発行 新潟市教育委員会
新潟市学校町通1番町602番地1
〒951 TEL. (025)228-1000
印刷 (有)太陽印刷所
新潟市和合町2丁目4番18号
〒950 TEL. (025)265-3101